

速読力を養う英語科の教材および学習指導開発

松尾 砂織 村上 直子 深澤 清治 松浦 伸和

1. はじめに

中学校学習指導要領の外国語科の教科目標は「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くことや話すことなどのコミュニケーションの能力の基礎を養う」である。具体的に示すと次のようになる。

- (1) 英語を聞くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を聞いて話し手の意向などを理解できるようにする。
- (2) 英語で話すことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話すことができるようにする。
- (3) 英語を読むことに慣れ親しみ、初歩的な英語を読んで書き手の意向などを理解できるようにする。
- (4) 英語で書くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを書くことができるようにする。

広島大学附属三原中学校英語科（以下、英語科）では、広島大学附属三原学園（以下、本学園）が平成15年度から実施している研究開発を受けて、研究テーマを「自己表現の創造を支える実践的なコミュニケーション能力の育成」とし、「聞くこと」「話すこと」を中心とした学習指導と学習教材の開発を行ってきた。

生徒の実態を知るために、11月上旬に中学校8年生81名(男子39名女子42名)にアンケート調査を行った。調査の中で、生徒が一番できるようになりたい4技能を聞くと、「話すこと」だと分かった（聞くこと15%、話すこと57%、読むこと4%、書くこと14%）。これは、国際コミュニケーション科で行った国際交流学習の経験が、「話すこと」が必要だと感じさせている原因なのかもしれない。例えば、実物や写真を見せながら相手に自分自身のことを語る「Show and Tell」は、英語科の教科書で基本表現を教える。次に、学んだことを活用する場面を仕組む。例えば、ALT、留学生、

本学園を訪問する海外教員、修学旅行先で半日ショートステイをするアメリカ人家族など海外の方々を相手に、自己紹介をする学習である。ただし、コミュニケーションを行う場面設定に関しては、本学園が研究開発として行っている国際コミュニケーション科（『21世紀型教育への提言 幼小中一貫で育つ子どもたち』pp.150-157参照）で実施する機会が多い。生徒たちは、直接交流でうまく伝わらなかったり、言いたいことが伝えられなかったりといった実体験から、話せるようになりたいと感じていると思われる。

実態調査から「話すこと」への意欲関心が比較的高いことに対して、「読むこと」への関心は低いことが分かった。「聞くこと」「話すこと」を特に指導するといった従来の学習指導要領から、移行措置対応として、「読むこと」「書くこと」を中心とした学習活動の充実を図ることが求められているので、「読むこと」への関心が低い生徒たちに対して、まずは「読むこと」へ関心を高め、さらに読んだ内容が分かる読解力をつける学習教材および学習指導方法の開発に取り組むことを責務と感じた。

「読むこと」を指導する場合は、中学校英語科の教科書を使用する機会が多い。現在使用している教科書は、以前の教科書と比べると、伝言や手紙、物語や説明文を扱った読み物教材が減っている。また、中学校3年間で扱う単語数は900語程度なので、中学校3年間では読む量も触れる単語数も多いとは言えない。その理由は、中学校英語科で取り扱う900語程度までの単語が、季節、月、曜日、時間、天気、数（序数含む）、家族などの日常生活に関わる基本的な単語が多いため、高校入試で出題される長文を読む際には、かなりの注釈に頼って読む場合も多いからである。また、本校における英語科の定期テストや実力テストで長文問題を出題し、読解力を問う問題を出題すると、正答率が下がる傾向にある。定期テスト後に実施する誤答処理では、生徒自身の自分のつまづきを分析し、どうすればよかったか、どこに問題があるかをまとめてい

る。その中で多い分析文は次のようなものである。

- ・テスト後に問題を見たら解けたけれど、その時は焦ってしまって読み取れていなかった。
- ・つまらないミスばかりだった。もっと速く読む練習をする必要がある。
- ・テスト対策としては長文を毎日しました。読むスピードも速くなったし、慣れてきました。
- ・長文ではなるべく速く正確に読む力が要求されるので、練習をすると同時に、長文によく使われる単語の意味を理解しておきたいです。
- ・長文での点数が悪い。長文は読めているのだが、読解が出来ていないことが分かる。長文をもっとたくさん読む練習をしたい。

生徒の分析文から次のことが分かった。

- 制限時間の中でまとまった文を読むと焦りが生じてミスになる。
- 時間が足りなくて（読むスピードが遅くて）問題文を最後まで読むことができない。
- 読めるけれど、内容まで理解できておらず、読解力がない。
- 単語の意味が分からず、おおまかな内容が理解できていない。

生徒の分析文から考えると、まとまった英文を読むためには、制限時間内でできるだけ速く正確に読むこと、単語力をつけること、速く読んでも内容を理解する読解力をつける指導が必要であると分かった。

そこで本研究は、コミュニケーションの中で基本的な語彙や文構造を活用できるための必要な基礎学力を、読むことを通して培うことによって、物語や説明文などのあらすじや、大意や概要を読み取ることができる力、読解力を育むための学習教材および学習指導の開発するために必要な基礎データをとったり、その学習効果を調べたり、問題点を明らかにすることを目的とした。

2. 研究方法と計画

(1) 先行研究から分かる読解力

平成15年に実施されたPISAの国際学習到達度調査によると、読解力とは「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力」と定義づけられている。中学校学習指導要領の外国語の教科目標から読解力を読み取ってみると「話し手の意向などを理解し、自分の考えなどを話し、

書き手の意向などを理解し、自分なりの考えを書く」とあるため、教科目標そのものが、読解力であるといえる。天満（1989,pp8）では、読解とは「文字で書かれたテキストを読むことを通して、書き手の意図する意味内容を理解すること」と述べられている。中学校英語科で扱う「読むこと」の言語活動は、次のようなものである。

- (ア) 文字や符号を識別し、正しく読むこと。
- (イ) 書かれた内容を考えながら黙読したり、その内容が表現されるように音読すること。
- (ウ) 物語や説明文などのあらすじや大切な部分を読み取ること。
- (エ) 伝言や手紙などから書き手の意向を理解し、適切に応じること。

(2) 研究方法と計画

本研究では、7年生と8年生を対象として行うことにした。教材に関しては、7年生には、中学校で使用してきた教科書や、中学校7年生程度の英語力を問う英検5級の過去の出題問題など、8年生には中学校8年生程度、英検4級程度の学習教材などを使用して速読の学習指導を行う。速読の指導では、読む量を増やすだけでなく、できるだけ速く読むことに慣れ、短時間であらすじを読み取る力をつけることを通して、読解力の向上をめざす。本稿ではその実践例を報告する。

3. 生徒の実態

速読の指導を行う前に、先で述べた意識調査を行った。対象は7年生82名（男子40名女子42名）と8年生81名（男子39名女子42名）とした。

図1の調査結果を見ると、両学年とも英語で一番身につけたい技能は、「話すこと」であると回答した。続いて、「書くこと」の回答が多く、outputの技能を身につけたいという結果となった。「話すこと」とは対照的に「読むこと」は両学年ともにあまり身につけたい技能ではないことが分かった。

図2の調査結果を見ると、両学年とも4技能を伸ば

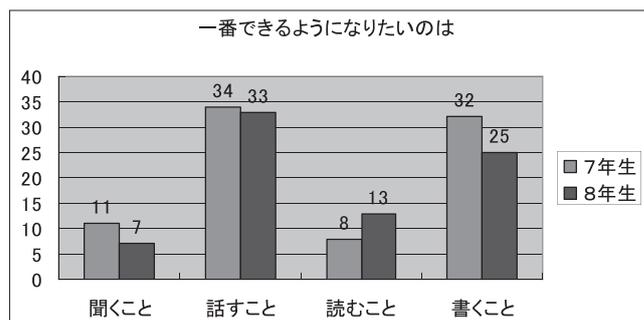


図1 一番身につけたい技能

す学習に対して、特に好き嫌いを感じていないことが分かる。特に7年生の結果を見ると、4技能とも好きだということが分かる。8年生の調査結果から、「聞くこと」「読むこと」が好きだと感じている生徒が他の2つを上回ることが分かった。

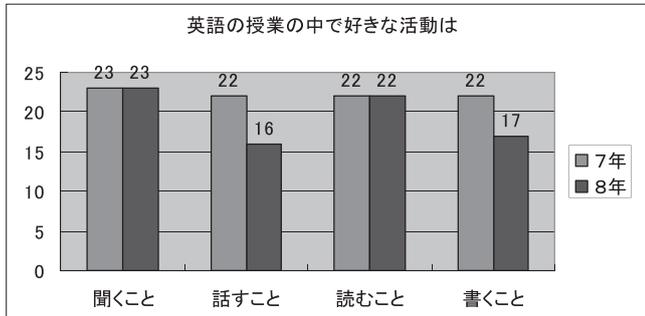


図2 好きな活動

4. 授業の実際

(1) 7年生の事例

①学習の概要

7年生の読む力をつけるため、英文を読み、設問に答えるワークシートを作成し、継続的な取り組みをしようと計画した。授業の前半5分程度を使い、出来るだけ速く読むこと、正確に読み取ることを目標にした。

②教材について

使用した学習教材は、教科書である。本校では教科書New Horizon English Courseを使用している。本実践には、前回の改訂教科書（平成17年度版）を使用した。登場人物やストーリーも少し変わり、暗記や記憶にたどらない、しかし学習内容は現在の学習進度に合わすことができるという利点を生かすことのできる教科書を題材に選んだ。

③学習の進め方について

速読の指導は、五十嵐逸郎（2002）による先行研究を参考にして行った。指導者はストップウォッチを用意し、生徒は配られたワークシートを裏にして机の上に置く。合図で一斉に表にし、速読、そして問題にとりかかる。指導者は、最初に挙手をした生徒が現れると、そこから秒数を読み上げていく。後に続く生徒も、できたところで挙手をし、そこで聞こえたタイムを記入する。制限時間は2分で行う。そこまでで時間を区切り、全体で答えを確認させる。問題までたどり着けなかった場合は、読めたところ（単語）までにするしをつけさせる。あとは、回収し、結果をデータ化する。データは、設問の正当数とWPM（Words Per Minute）を記録にとっていく。ある一定のところまで、今まで記録したデータを個々に返却して、グラフ作成をさせ、自分の速読力に対する変化をふりかえらせる。

④成果と課題

実践を通して思うことだが、本来ならば活動時期は3学期（1～3月）に行うようにすれば、最初のワークシートなどは簡単に感じ、速く読めるので生徒への動機付けもできるのではないと思われる。活動が進んでいく中で、もしWPMが大きく数値が下がったり、正答率が下がったりすれば、そこがつまづきの部分と認識して、理解を深めるための手だても考えられよう。

しかし、速読に対する正しいデータを見るには、ある一定の英文レベルや設問数を吟味しないと、正しい数値は得られないのではないかと考えられる。速読に対する研究・実践はさまざまとこころでされているので、これからもより効果的な指導や生徒への興味関心を高められるような題材開発をしていきたい。

(2) 8年生の事例

①学習の概要

これまで「読むこと」の指導は、精読や音読を中心に行っており、速読は初めての取り組みなので、学習活動の始めに目標や趣旨を説明し、十分に理解させた上で生徒に対して速読の学習を導入した。

*速読をする上で、気をつけてほしいこと。

- 前からどんどん読む。
- 読み終わったら、もう一度読み直したりしない。
- できるだけ速く読むように意識する。
- 読み終わったら、英文を見ずに内容理解の問題を解く。

速読の指導手順は、7年生で実施した内容とほぼ同じように行った。

②教材について

学習教材は、中学校8年生程度の英語力を問う英検4級の過去の出題問題や予想問題、速読長文（参考文献より）を使って行った。また、7年生と同様に、教科書（平成17年度版）を使用した。

③学習の進め方

学習の進め方は、7年生と同様に実施した（7年生の事例を参照）。8年生では7年生よりも単語量を増やし、50字程度の英単語を含む英文から取り掛かったため、制限時間を設けずに実施した。ただし、この時間までに読みきってほしいという時間を目標時間として指導者が提示し、生徒には、その目標時間内に読み切れるように、できるだけ速く読むように指導した。

④活動に対する生徒の感想

- ・日本語と違って、スラスラ読めるものではないので、普段から慣れることが大事だと思った。
- ・速く読めるのと、読む時間を短縮できるので練習したいと思った。
- ・自分がどのくらいの力を持っているのか知れて良かった。
- ・最初よりもWPMがあがったので意識すれば速くなるんだと思った。
- ・自分がやってきた事が身に付いて良かった。
- ・意外にちゃんと単語や文章を理解できた。
- ・難しいけど速読のくせがつくと良いと思う。
- ・難しく頭にはいりにくかった。あまり自分には向いていない。
- ・難しいけど出来るようになりたい
- ・楽しかった、またやりたい。

⑤調査結果と考察

速読の実施後にも意識調査を行った。対象は8年生80名（男子39名女子41名）で、実施時期は1月上旬、質問項目は16で実施した。考察を進めるにあたって、よくあてはまる、少しあてはまるの回答を肯定的評価、あまりあてはまらない、全くあてはまらないを否定的評価ととらえることにする。

図3の結果から、66%の生徒が英語を速く読みたいと肯定的に考えていることが分かった。図4の結果からは、速読を肯定的にとらえている生徒が多く、63%の生徒が好きだと回答した。しかし、速読がとても好きだと感じている生徒は14%であることから、速く読みたいと思うけれども、速く読むことは好きではないと感じていることが分かった。このことに関しては、生徒の感想にもあるが、速く読むと気持ちが焦って内容理解にまで至らないために、難しいと感じてしまい、結果として好きになれないと考えているのではないかとと思われる。図5の結果から、79%の生徒は速く読んだとしても単語の意味を理解することができることが分かった。中学校の英語科では、じっくりと読んで内容を理解する精読や、物語の場面心情を表現するように音読をすることが多い。したがって、生徒は同じ単語に何度も触れ、繰り返し見たり、発音したりすることによって、単語の意味を理解していることが考えられる。しかし、速く読むと単語の意味が理解できないと回答している生徒が21%もいるので、既習事項の定着がはかかれていないという指導のあり方に問題があるとも言える。また、図6の結果からは、40%の生徒が、

速く読むためには練習量が必要であると感じている。感想文にもあるように、生徒は回数重ねて速読を行っていくと、WPMが上がる経験を通して、意識して読めば、あるいは速読の回数を重ねれば、速く読むことができると考えている。一方で29%の生徒は単語量が不足しているので、速く読むことが難しいと感じている。これは、教材内容に問題があったのかもしれない。

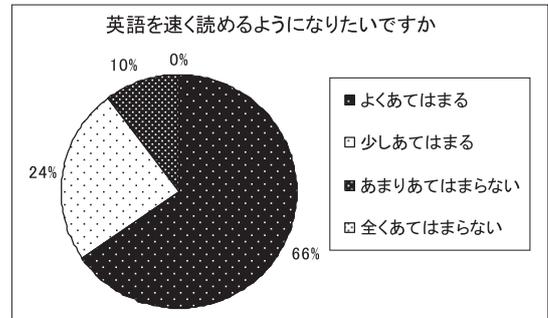


図3 速く読むことへの意欲

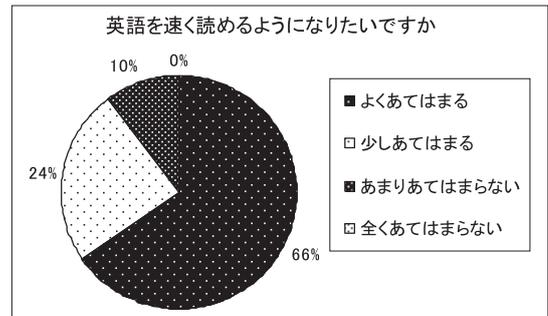


図4 速読に対する関心

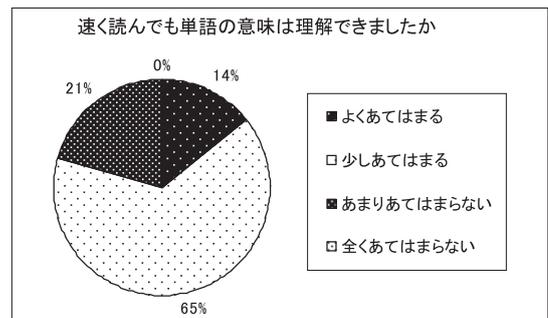


図5 単語の理解度

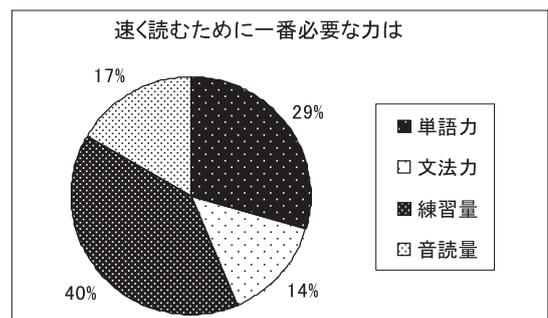


図6 速読に一番必要な力

6. 成果と課題

1年次の本研究では、読解力を育むために速読教材を活用した実践とアンケートによる意識調査を通して、速読指導に関する基礎データおよび速読に対する生徒の反応を知ることができた。しかし、次の2つの課題が浮かびあがった。

1つ目は、速読に必要な力は、練習量と単語力であると感じている生徒に対して、授業の中で単語力を確実につけさせていく指導が必要であるということである。つまり、単語力がつくと、速読で読める単語量が増えていくことが考えられ、結果として読むことが好きになり、意欲が高まるとも考えられる。

2つ目は、速読教材の難易度も考慮して実施していかなければならないということである。一度にたくさん分からない単語に出会うと、生徒は戸惑ってしまい、意味を理解しようとして、精読をしてしまう傾向にある。速読への慣れは、速読の練習量とも関係あると思うが、分からない単語に出会っても、推測しながら物語を読み、理解する読解力を生徒に身につけさせなければならない。今回の研究は、試行的な実践であり、評価方法や学習効果を検証するには至らなかった。

今後は、集積した基礎データを元にWPMの伸び率を分析したり、内容理解の正解率の伸びを分析したりして、生徒の読解力がどのように変化したかについても探っていきたい。

引用（参考）文献

- 1) 五十嵐逸郎：『読解力の向上を図るための速読・多読指導の工夫～WPMの向上を目指した速読練習を通して～』、福島県教育センター研究紀要第138号 pp.49-69, 2002
- 2) 天満美智子：『英文読解のストラテジー』大修館書店, 1989
- 3) 広島大学附属三原学校園編著：『21世紀型教育への提言 幼小中一貫で育つ子どもたち』 pp.150-157, 溪水社, 2008
- 4) 本多敏幸：『未来を切り開く学力シリーズ本多式 中学英語マスター速読長文』, 文藝春秋, 2004
- 5) 松尾砂織, 村上直子, 深澤清治, 松浦伸和：『中学校英語科における評価規準と評価方法の開発』, 広島大学学部・附属学校共同研究紀要第34号 pp.205-212, 2006
- 6) 森田勝之編著：『英語脳強化メソッド速聴×速読 トレーニング』, 株式会社DHC, 2006
- 7) 文部省：『中学校学習指導要領（平成10年12月）解説 外国語編』 pp.6-20, 文部省, 平成11年9月

Let's Read 1

グリーン先生のスピーチです。

Hello, everyone. I'm Lisa Green. I'm from Canada.

I like swimming. I like music, too. I play the flute.

T or F

(1) Ms. Green likes swimming. ()

(2) Ms. Green likes music, but she can't play the flute. ()

Q and A

(1) Where is she from? ()

Finish Time = () 秒

正答率 /全3問中

Let's Read 5

デミ(Demi)とケン(Ken)の会話です。

Ken: Do you often watch TV?

Demi: Yes. I watch cartoons. I also have some comic books.

Ken: How many comic books do you have?

Demi: About ten.

T or F

(1) Demi likes watching TV. ()

(2) Demi likes reading cartoons better than watching TV. ()

Q and A

(1) How many books does Demi have? ()

Finish Time = () 秒

正答率 /全3問中

資料1 実践で使ったワークシート

別紙様式2

8学年

英語科に関するアンケート 2008

* 次の質問のあてはまるところに○をつけてください。

	質問項目	あてはまる		あてはまらない	
		よく	少し	あまり	全く
1	英語の授業は楽しいですか				
2	自分が英語を話すのは照れくさい				
3	英語を話せるようになりたい				
4	英語はむずかしい				
5	一番できるようになりたいのは（ひとつに○をする）	聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと
6	一番むずかしいと思うのは（ひとつに○をする）	聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと
7	次の課題の中で、好きなものは	問題プリント	毎日ノート	英作文	完全学習
8	テストで、むずかしいのは	リスニング	単語を書く	文の書きかえ	英作文
9	英語の授業の中で好きな活動は？	聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと
10	英語の授業の中で苦手な活動は？	聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと
11	英語って、どんなイメージですか？（記入してください）				
12	英語の授業の中でこんなことをしてみたい（記入）				
13	将来英語がきたらこんなことをしてみたい（記入）				

※このアンケートは全体の傾向を把握するものであり、個人を特定するものではありません。

御協力ありがとうございました。

別紙様式2

8学年

英語科に関するアンケート 2009

* 次の質問のあてはまるところに○をつけてください。

	質問項目	あてはまる		あてはまらない	
		よく	少し	あまり	全く
1	英語の授業は楽しいですか				
2	速読は楽しかったですか				
3	自分が英語を話すのは照れくさいですか				
4	英語を話せるようになりたいですか				
5	英語を速く読めるようになりたいですか				
6	じっくり英語を読むと単語の意味は理解できますか				
7	速読は好きですか				
8	英語はむずかしいですか				
9	速く読んでも単語の意味は理解できましたか				
10	一番出来るようになりたいのは	聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと
11	一番むずかしいと思うのは	聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと
12	次の課題の中で、好きなものは	聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと
13	テストで、むずかしいのは	聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと
14	英語の授業の中で好きな活動は	聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと
15	英語の授業の中で苦手な活動は	聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと
16	速く読むために一番必要な力は	聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと
17	速読をして、どのような感想を持ちましたか				

※このアンケートは全体の傾向を把握するものであり、個人を特定するものではありません。

御協力ありがとうございました。

資料2 英語科に関する意識調査